

繪入

山柳考史
二

~ 13
3297
2



門へ 13
3297
2

山株太夫榮枯物語卷之二

江東 梅暮里 谷我補編

天正十一年八月廿九日
本大學出版部

第四

俊國奴婢の通ぐれと見道と

却説此馬郡司兵衛俊國家の危と云敷くとしども人々流一匹
かれど漫中商議と云れもなき暗中大村外記左衛門と密造候とのみ憑
明はを恨三良計もあふんと引籠て頭と碎と泳念々を財家族小一
のさしたるあり妻守和竹が側女柵とて先の年門あ母捨あり多れと拾
あげ殊小孺子ゆゑ自子育て成長量風俗も衆中穢らうら肥もやは
あく女の道も辨へけしバ郡司多病夫婦ゆゑ患て泳く柵も又並くあね
主人の恩と厚く報ひ露むかりも裏かく二十のまうもはらなむと公
と情中棄てけりや家奴賣喜作といはれ強士といつこの比より公を通じ

山株太夫巻之二

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

主の眼をうらはし怖れ悔れじち愛惜不汚るるを洗ぐんとせしむ
 却るるこのふの薄き心を恨む雲間成出れ月のかほり高きあるを罪と
 且と忽雲閑くられらるる天の川に隔もあふはふ我の罪不縛と濁ら
 染り互ふ膠漆の中となり比目鴛鴦の契りに積愆の厚きも竟か亡却
 ぬし悪心のよく走風れなりと千名もつけば郡司兵備夫婦の
 えう家の紀律の厳しけれど延びかじと夫婦高議さし微小寤房へ
 柵吾作の二個成すねと郡司ま清りつると當家の他法へ他家も倍へ依
 通の紀律平しく倍臣といふも死罪と免とど汝も年暮あはれおされ
 ぶしこれむかすのけは及ばれども虚名もせよ不義の風説ありある
 久も人は公防ぐるる扉もなむ訟者われ耐へ縛捨く実否を乳小至ん
 携同法をに忠と草におらりば尤もそ形れ死おけくの歎しく快く

結命まべりこらり傍小育れおホなれ憐れお涙くおひけつに不量
 も今別々の残まると涙の栗袖成はるひ字和作も夫のうろを汲り
 尚衣さも傍り泪おち一隔云れハ柵を父母の有無をえられ便かたりの
 傍母養育われハ表也形は柵なり。二十四のその成て孩子のやのふおひ
 つつとわら連の罪なり。賤の事業といふかひなわんが俱小なきけ面割て
 あとへ兩位之個忍び子ありとも心中をまると友白髪まで睦み憂樂さも
 隔なく。後初も内外の不足より。毆氣出するそのと申人諺のれを忘れても
 海へけしみ情のれ人小便り。悪まれざるこそ世流りなれ家をも高文おなふ
 業と做とも。其令おけて。愁はしと。服紗ふ其令包とをよへられ兩位良
 位卧かれ人非人のおどがはしく。利非を述べれお似えれども侯通のけ名おれを
 え道しむる。綱相公の御方お講んぞや。お個成傳り捨り死地へけひ明白

小折ふりうらと此うの憐愍たんと喜作女個を退くへたもこころごとく
 然と洞正正しくや罪の明白なりと依怙の沙汰ふ及ぶごとくや速ふらま
 ばしと郡司き傍の怒とれまに両位も今の詮まどお。泣くまんとなせとれ。
 こや兩個りまどおあふれれも主家嬖妾梢たる小國家の危さる且た
 宿りニツハ村岡玄蕃要道逆意の萌ありとしども分明なり大國のち
 下海内は溢れ如くなれども俱小議まどおの死あふれまに至る公あ
 も公なれも妻子眷属は幸且時の喜ふ隨ふごとく我世嗣なれを愁るごもか
 じし汝らまどお我恩を流し思ふ我亡跡母ても主家の滅亡のわ我へ報へ
 我主家のかごへ報ひよ憑るまじ小我も手の内をこせせやと一區おける
 命をまいと喜作は打けけられまどおかじもせと額へらひ苗鮮血流るまど
 へど血も流るるま令包のま押載を斯面へ我まどおに下すしハ鮮血をり盟

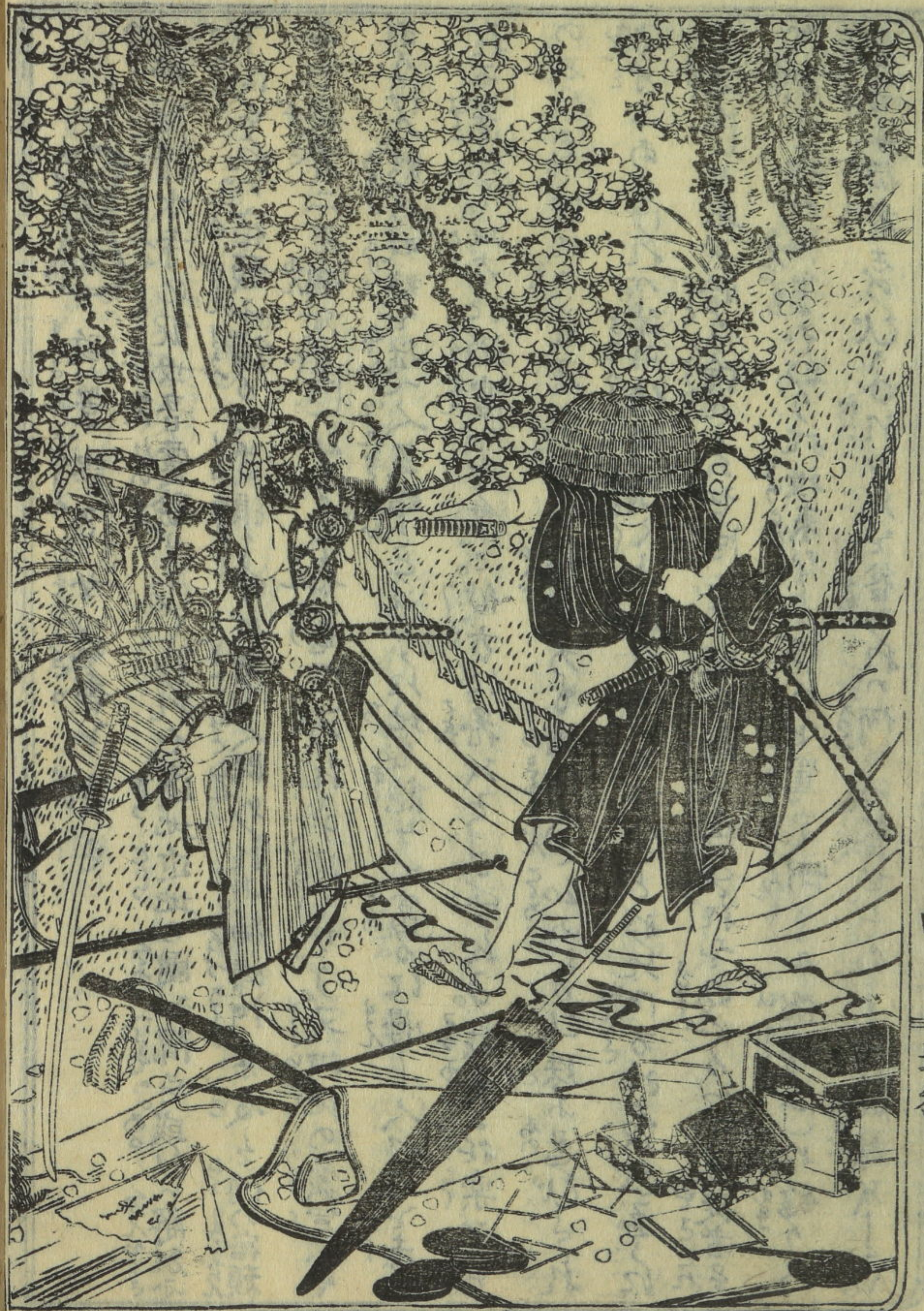
心だうに頂戴はれむまどおなれ壯士と泪もあひふまどおしてや和作
 流るる障の紙門建切入れと入送りて。今更のやらぬは柵を制し主人の心
 とれ一言成納位なれ主家と入捨籠中の鳥の初て菴と放しまどおのみ似く
 何とへ行何れへまどおはまどおもまどおりなれ。それの叔重正氏と梢をまどおの
 小公を勞されまどおも羽と拒む悪行日に記し砕てまどおの白きをまどおた
 の家生練を進るにまどお或ハ避れ或ハ誅まどお者救とあれまどお群長
 おされて敢て練るのね玄蕃と正氏とあまに邪道へ引入る万民も疎ま
 まれ好も辱成就はし大村託馬の柱石の臣ハ先陣へ入るまどおを梢と俱も
 汗まどおしけれ託馬郡司も傍後國の誅のまどお届まどお知といへも其派を食
 ねがら二七の命を好ま玉と成て碎えと正氏があへ嘯とゆ梢玄蕃と後方
 小白眼しれハ燕雀堂も巢と結び母子常にやじとす。其家俄ハ失火有

く。棟の焚くはるゝに、あはれまて、燕雀怡然として禍ひの及ぶは、あはれまて、今當家の氣
色す、違つご、梢の色と止り、倭賊と避る、いへん、目前家七人と、後さつ、置り
去、蕃、切、て、人の、萌、え、ゆ、れ、は、心、氏、郡、司、多、傍、が、警、と、ら、さ、り、居、や、れ、我、は
倫、て、美、々、し、も、毫、毫、妾、嬖、臣、と、害、せ、ん、の、萌、不、敵、な、れ、た、ま、て、道、と、脱、至、學、究、已、と、ご、
家、と、治、る、み、え、あ、ら、ば、れ、癖、と、して、我、と、流、る、の、事、お、し、汝、が、家、の、僦、通、の、者、と、亡、命
か、に、し、め、高、た、小、居、と、我、家、の、旋、と、破、り、と、先、お、云、脱、後、お、我、を、誅、之、し、梢、お、は、
我、者、の、り、て、我、を、祥、お、あ、れ、り、云、沢、わ、り、や、と、責、た、れ、は、郡、司、多、傍、俊、國、と、や、り、
の、な、ら、ば、我、と、悔、ひ、腹、搔、切、何、つ、り、んと、す、た、ら、ば、玄、草、首、打、落、と、梢、微、と、さ、ひ
さ、り、つ、る、か、い、は、て、報、の、と、や、ま、や、神、仏、の、結、び、ま、じ、緑、の、思、語、も、あ、ら、ざ、れ、母、と、
袖、う、ら、覆、ひ、俊、國、が、死、級、と、ご、ご、尊、所、信、し、た、れ、ハ、お、そ、る、た、公、の、計、得、べ、か、ぶ、ご
ご、干、時、永、久、四、丙、申、後、小、行、年、六、十、四、也、や、て、忠、死、し、け、り、

第五

政景 誤て女浅香と書さ

山城、瀬清水寺の、観世音靈驗、ま、く、けれ、で、遠地、近地、の、國、と、隔、さ、或、い、へ、解、於、不
下、向、さ、れ、は、宿、願、不、結、る、の、波、浪、と、せ、れ、如、く、人、群、わ、れ、は、梅、津、何、某、及、も、何、の、宿、願
も、や、從、者、二、二、個、或、具、し、む、そ、う、に、糸、菴、は、し、め、れ、る、月、く、な、り、又、何、地、の、豪、富、も、や
あり、けん、夥、の、奴、隸、と、從、へ、人、足、踏、と、ら、流、か、れ、地、も、飽、ま、て、富、る、に、慢、し、人、お、れ、と、走、れ
我、不、等、し、く、此、方、に、酒、宴、を、な、せ、ご、彼、方、に、花、火、を、し、ら、す、れ、る、我、庭、は、托、樂、を、と
の、お、ひ、い、ふ、か、れ、る、も、え、へ、ご、り、ね、梅、津、の、も、酒、狂、人、と、公、お、お、す、い、殊、お、忍、び、と、れ
は、才、お、あり、けれ、は、路、の、傍、に、消、こ、と、通、り、ま、り、女、お、ん、ご、と、形、れ、は、方、北、志、の、び、ま、り、
往、來、は、ま、り、の、悟、り、除、ん、と、せ、ご、し、路、の、街、は、ま、り、を、妨、ご、り、に、より、從、者、を
奴、制、と、れ、は、女、を、ご、かり、れ、往、來、な、ら、ば、我、を、罵、り、慍、し、お、誹、謗、は、し、ぬ、餘、り、乃
悪、言、お、從、者、を、の、び、ご、り、れ、た、れ、と、咎、め、れ、何、の、答、せ、ご、あ、ま、ご、の、奴、隸、を、し、ご、



ほか従者と打あられ託馬膳輔といつ者先より此始末よく居りしが有り成
 法ふさくを公母怒り。高位の位方れさぞお心を勞しみのり成る事し
 云着せはとばとやうづらに打さよと。指禪不得たりと取り死なれ非問不梅津
 との目尻りてあせわれが辛らして主従逃延行ゆれ成腹立ちひきつれ
 高位の鼻ひく死肉を信さんと。聊人ふかりひけるに。你か身よりて贖ひし
 骨がふさくれもてに打く腹ぬれを休んと。膳輔下殺支個を多勢かま
 らんべに打たれぬ。縁が上膳輔を病る後の肉度くは。を神調つれは富
 客の為小引伏られぬ。膳輔が下殺の傍る不仁成罵り。そや足すくと白又ふ
 支と個を切殺し。二人と救んとすれぬ。救多ふを困と。爰と命限と排裁い
 天暗の働きに目と暮るうさうれはかりしが。膝も多勢と俱ふ死さげり。富客
 と此光景に尚怒りしつれを。汝奴僕一個とし。我駝の奴隷と失ひつるの

恨なれ汝とりと。乞死傷心と休めんとて。膳輔と刺んとたを。付編を立み面成
 縁せ浪士捕手に一殺始終泳り居りしが。非義非道と傍る。富客の脊を
 後もて一刀切さぐ。膳輔救ひ記しつりきれが。膳輔再生と礼拜しつ
 りつれは。かく必死を救ひし恩人とも。つが地よは。いかなれ人形が。同か。今零
 落はしつれ未由もめれが。人よ面成さるん子成羞人目立ち。の姓名述が。と
 固恨くれ修る所も定る。ふた又の縁にありが。音絶ん子成物。きんと
 ながら。膳助袖を扱去めても再生の恩人今別。いり連るに便りもたれを愁
 とす。と名を我く。海成は。あは。永く因と結ん子を願ふ。此身女子あは。は。が
 阿古と云名づけ置後。再娶ん子成を。の厚られ。浪士も今ハ。推辞。傍
 我もも。勿女あり。其切なれ。ふりて。未の幼定。なを。やと。小指と。食裂。淋
 血とり。と。祥。小。姓。名。を。と。認。め。膳。輔。へ。送。り。渡。し。ぬ。膳。輔。も。抵。言。る。公。母。と。

俱小指と列衣細中り名所もて縋め我帯せれ一刀と務れば又浪士よりの帯
 刀とおろ。騰捕後會次務しわれハ在下故あつて住所定められまて音信不
 通なせどもかき入る誓物変せじと。たかひみ名残を惜と騰捕ハ下部乃死骸
 便り形へえ接々道は別とされ。かくて大村外記尤清門政景ハゆるりおき
 先定お併裏てや國家の危き氣愁ひまら梢と先へ害せしとて。仮の獄
 舎と拔出正氏が洞房近く思ひ踐踏と打探小正氏の傍ふり入へばして遙
 向方なれ長廊下と過れとるまじいさか警木家の亡びぬれまじし天の賜と
 大ひみ心よ喜ぶ梢ハ誰やらん耳とれやと振久り。外記尤出つて入て完
 爾と笑ひ行さんとなすれを政景走りのつき。國を傾らん悪婦おりひたれと
 後より切付とハ。吻といつてのひさまに倒れ其まじ止めを刺んと顔とるまじは
 え迷へざくもめらね西へ梢とはハ娘浅香なり。外記尤清の周章仕



換せぬ悔とど貝ね。さるあとも梢が公裳を。身小纏ひわれのしづらにを
 何ぞは香いと苦しげぬらわれればか父の顔をえく涙をこぼしつれづれ
 が公常たふざれやうにえへ心神憊れればよ夢小籠世し意地めてしつと
 かりとの所へあり。おのづかれ父のよまかほしも仮初めぬ恩人を虐しむ
 りとの悪念發りし故。えより悲しと涙降しあふるも斯悔れも甘辛も今
 よりして誰あうかえん候りもそ母へのとめれ別とに父への子小月。下日
 の孝も行つて今死る身罪咎の空怖しれを公小納め。い中苦痛と道
 てと合掌するも。外紀左進つも了得み恩毫の泪漲るむうり。悪婦ゆかかれ
 主家の滅亡も弁つと。一箇小我を恨とけるの不便とん之れも。此期は過
 さらば悪くんと。深念を極めぬ苦しみも安恩空寐殿へ追行んとぞひり
 ころと返し。苦痛と透とせんと眼を肉咽えへ刺しれ小心乱と救テ所を

突も切先定せられを。ぞひ改めはし貫と。ひそくに死骸を取匿入るを針
 けり。扱睡月の方へ別殿へ藝居るも。對面えもひびりて今下度係れ度とひ
 めれども。玄蕃が同腹の者。附金ばかりて練じぶき。你念もねく。を乃を吐ら
 恨。菴鳥の樹木と目前よかを。そのひ憑とと。忠良の避く再びあふ
 ぞ。朝の形方夕級ふかり。風も吹ぬく。後音信の連。庭中啼蚕
 ねと拂ふ松風のここと。心づいも。せよ兼る。涙え音あれたく。袖あられ
 瀧津瀬かたれ枕小れ。落ね夜とてもね。獨作しく。卧わらに。お小言へくも
 だれ中。しり。身壯孫小永。又五丁酉五月二日。玉の如くの男子を生り。睡月
 の方丈ひ。母驚馬。昔唐士の。美原野。よ出巨人の蹟とえ。ろ。欣然と喜ひ
 とれを踐とほりて。踐身動る。孕りの。如く十月。はして子を生我國。あ。ま。ま。こ
 別雷の神前。棟よま。ろ。身。驚。馬。子。と。産。例。の。れ。其。類。ひ。より。や。去。り。て。も

正氏の疑ひのおこるるや、ついでに「ついでに」も、了得小愛憐の情日々にぬく。云々、梢が隣に睦月の方へ、国房のこころを忘るるは、後で「睦月の方へ」小男子を出せ、それともいふれ、ゆめやのかり責もせめて、都志王と名付寵愛深く、昨日に今日と智恵付のこやれ、伶俐の将のあじなれ、と憂月日も安喜、都志王の両子となつて、樂しき暮しをひたれ。

第六

梢白狐の形を顕して、子母別れ。かくて、梢と正氏の傍に、都志王九が寐房に至り、睦月の方安喜、都志王を熟睡こそ、能折なりと、都志王九抱き、揚げ、顔を守り、とらりと、涙流す。四年前、以前、父磐木判官正氏、磐木山小採獵か、せれ當下、無罪我父狐母狐を捕り、けし、剝皮長土岐九郎、繁頼とあゝ我尾を射裂し、其怨恨時日も忘れ、付して、村岡玄蕃要道、逢ふ。

萌あれを知り、さあぐなれ、怪るに正氏か、公と感し、玄蕃一個、小邪政を執り、媚した娘と貌を變じ、壁妻となり、俱も悪行、勧め、おろし、流を盪妨げ、做さ、忠臣、巧言、やりて、或ひの避、つひの誅し、とや正氏を害され、耐い、つひに、狐飲ひ、父狐母狐へも、向彼羅の妄執を、暗さ、入の、狐と、おまひ、積り、それ、も、い、う、な、る、因果の報ひ、みや、おろし、敵正氏の流を、臆身、禽獸乃、な、ら、ひ、安、く、生、れ、ら、へ、た、ら、ら、に、喰、殺、さ、む、や、と、お、り、ひ、巧、め、れ、も、産、む、に、し、え、ほ、れ、ハ、流、石、母、高、貴、の、胤、梅、檀、ハ、二、葉、お、あ、ら、つ、れ、い、と、お、し、く、禽、獸、の、腹、ハ、舍、れ、る、と、い、ひ、か、ま、え、と、あ、な、げ、り、屋、め、は、清、ん、こ、の、便、り、通、力、と、り、と、妹、脊、の、契、り、も、絶、く、し、ぬ、ら、う、あ、ふ、べ、た、睦、月、の、方、へ、蜜、小、肚、身、と、光、景、よ、り、と、は、て、汝、を、生、ま、れ、正、氏、の、精、疑、心、の、お、こ、る、れ、も、皆、我、所、為、な、り、子、を、お、ろ、し、ハ、人、間、よ、り、百、倍、ぞ、や、汝、を、お、ろ、し、終、の、途、と、り、正、氏、の、愛、慕、の、情、日、に、ぬ、く。

報ふがれ恨も空しく。はれがとて儂言ヲ捨るバ父母への不孝討ハ汝ガ父
 母スえあふがれのゆゑに。父母の恩此高きも知りはるごと。人間の身ハ
 いごちふに畜生の子にははるひりれ。愚かなれ成長母あごひも邪
 のこ流し出し多くれ人ハ疎まれる。睦月の方ハ実の母と露塵隔はる
 公邪ハ孝行はし行未答れをあげよし。睦月のかごも我隔ハるらみ
 とせご。都志王丸と憐と。磐木の世継とおひ育あられし。かれ懺悔
 を受あるとあふせ憑きすのふせも。都志王ガ為母悪りなんを斗り。
 固孩子の耳にもふぶれハ言明ハ甲斐なれも恩愛ハあせらる。せめ
 テ言くなると氣ハ暗と。おりの傷しれを畜生の道も同ト。おと
 今玄蕃要道ハ正氏ハ弑されをさげんとなれ。諸ハの券屬我を仇
 なりと苦しめんも子故ハ更ハ厭ハれんも。さしてはあふら我ハ代り怨ハ

なば此入あも何ハはの災ハの障らん。足ハ倍とべれをおひせせん。今
 さふにさむれも難く。我子の行未ハ守れべとのなればれを。いつるる去
 の約束ぞや。父母の怨恨遂ぞれより。諸ハれ券屬ハ除うれへくおひ
 付れを我と足より東南ハあふり。二百海里ハ隔てふへら越。未世ハ
 も人民の邪正を糾。たごらに栄枯を顯し農民の公道るじりんの功と積
 父孤母孤ハ罪ハ償りんと行んとせし。親子の血筋了得ま。去がれ名残
 みや都志王丸を眼と醒し。良繁ハ啼われを振かつて。えとや。去んを
 りし。髪編回の紺ひととさめ。立戻ハ抱とさめ。乳房と含。可愛ハ血
 筋の縁を。いごち。注とむれ。の公。か。め。こや。笑ひて。そ。た。め。つ。さ。め。所
 念。お。王。の。や。成。こ。の。阿。古。の。母。が。ら。後。も。悟。ら。ば。何。氣。な。く。笑。ふ。お。ら。ら。
 け。そ。の。悲。し。も。増。れ。ざ。し。人。あ。ら。ま。る。泣。乳。さ。る。の。も。今。日。か。ら。母。の。泣。乳。の。後



あどごとく泣止んことの不便さよ。たゞ成長うまきとも羞じや敵の種乃
 尚更ぬ。畜生の身れ母よ我子と名乗るが私の情なと。幼下置置と此
 の此阿古よ名残としこの都志王と枕邊後方へ立ちハ泣きた叫びて立ち
 戻り泣きながら臥沈ししが名残を盡しえ然らねんことを我子の為悪
 かんと東南にして飛去るを。

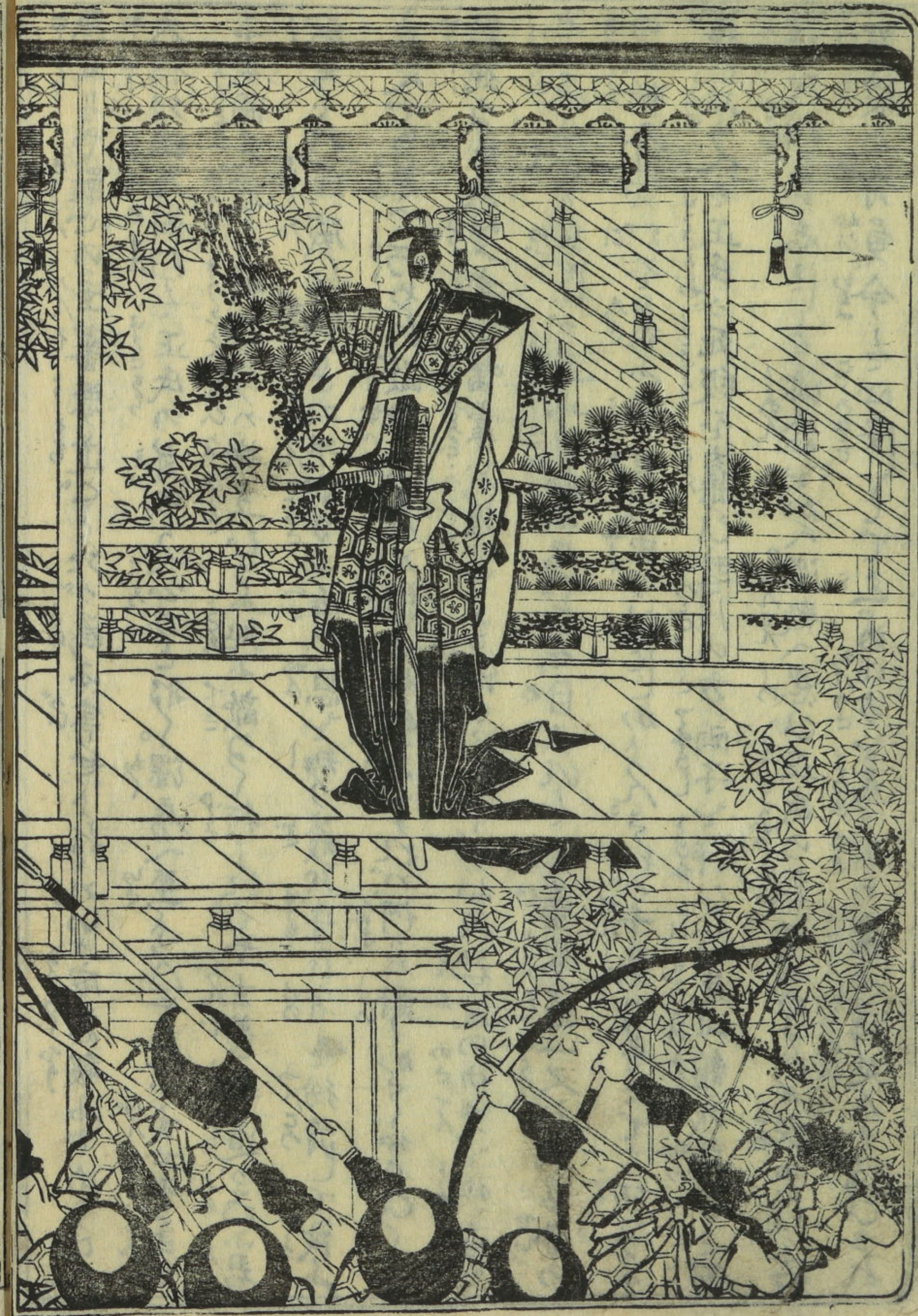
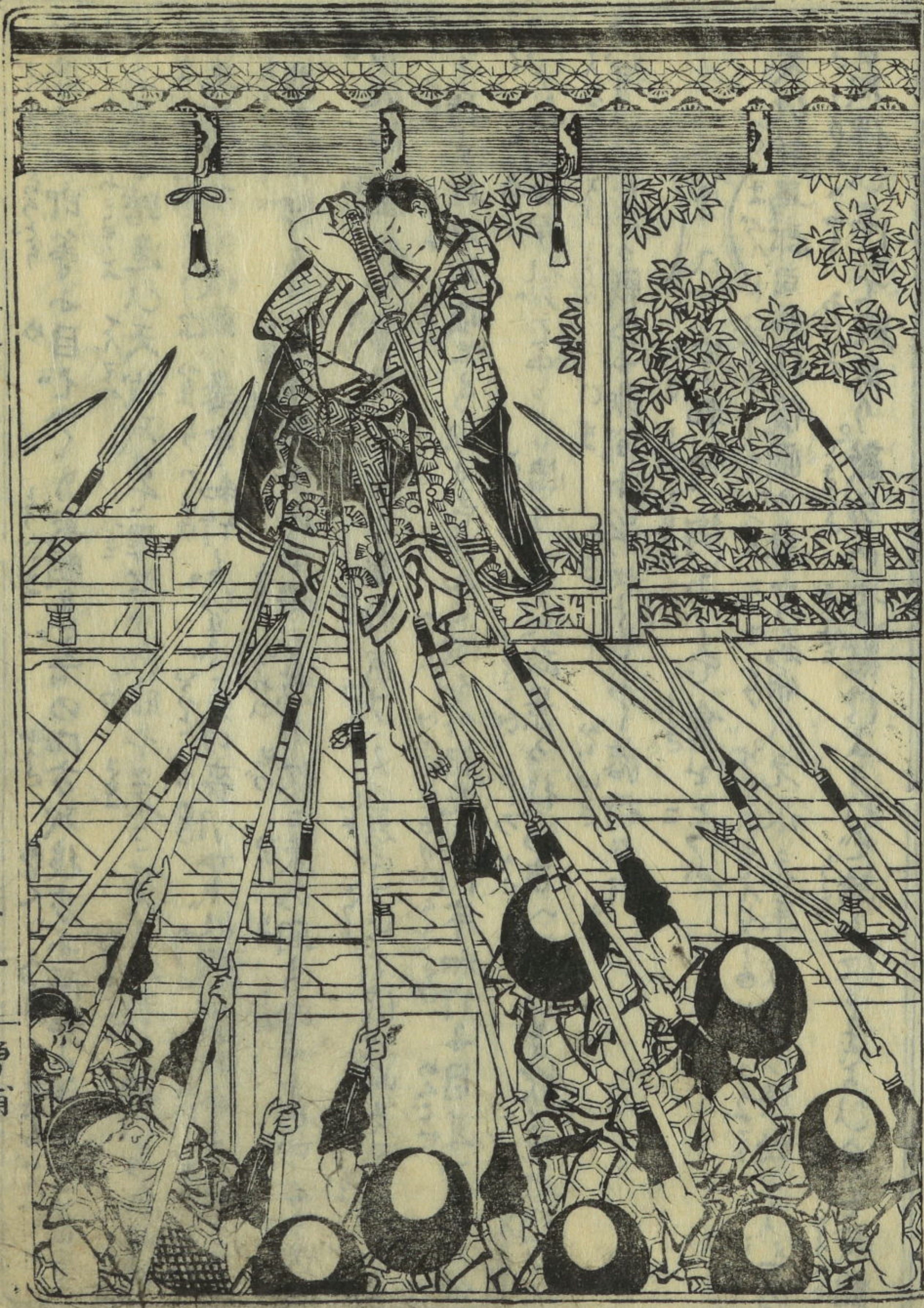
○按ふ昔上野園中尾裂狐といへれりて。人の邪正ふりて賤寶と
 運多しより得失あり。一説も運ひ狐といへれりる也。

第七

叔正氏とゆへく酩酊熟睡ぬ。折はしと玄蕃要道近く者。胸えを刺人とする
 叔正氏信と眼を用た賊臣何れ做といふは取て投け置た兼て用撥と重
 々れ矯方の者。とらくと正氏の左右組付なりともせしめて投のり。組

付んとすれぬ袈裟かけの切捨返を刀に車切あてはしぬ梢ぐえへぎれぬ
かりのひりぬれを玄蕃後方へ廻り脊より胸に刺しては貫た大音小黒りいなる
正氏より聞よ我旧怨を報ふに時至り汝を討て君を弑すの逆臣とも思ひ
けりんが我素姓云述もとも侂よく知るとは落なり父兵請忠要老衰はしるの
形はれを知り一端従ひて落よかぬ録を食とも旧恩を忘る病の床
嬰りし附我を枕迎お招きひそりにしれに附運を計り必旧恩の讐警木一
家を討亡し古主の後羅の志執を暗しるは是れ上然と忠義我のし我存念を
継よとの父の遺言は梢ともにも計定しに果し我併裏へ入り討武運め
を討る非運ありか入て悔るひなれは汝が愛妻さされ母孤の形を厭じ
飛去ぬれ心と残とるひなれ鬼畜もせよは怪あもせぬ梢こそ我の
守神と心拜し正氏が胸元を刺ぬ衣とえ永元戊戌年八月八日如何を我

悪日みや獸心の玄蕃要道ごとく紅が為小害せむはいつ成悪報ゆやりのん
大村外記九樹門と正氏の身のうらみと形く深房へ至らんを不玄蕃が節ホ
不取困と或る斬捨或の擲まむらぬ処小敵うく行しにそや玄蕃要道が為小君
弑せられ逆威に怖と大半躬方母庫で恩を知り我守れ者紛骨して戦ふ
といども兼て巧めぬ敵勢不意に討とわれ事なれば何の對かおかりひくお
戦死をも玄蕃と嚙掌に握とも詮とんぬくやおれ君父の仇天と俱ませそ
と一足母走り出せしが立止り公おとれを目ざひと玄蕃要道一人なり多勢の
中へ斬入るば灯を慕ふ季夏の虫おひじかかんされば千辛の事とも切なる
に此うらと正氏が死級を奪ひ睦月の方両子と伴ひ一先此館に落しに時
運次待みあじと深念をかへ深殿へ忍び正氏の首をとるわける夜おけりみ
袈裟小脊負今と心安としてこの西方を尋求ぬ蜜小落延んと伺ひたれ



に要道が即等小目むやも取圍と。この地方は後方小隔中よ汝亦玄菟苗小
俱小道中踏迷ひ天我成りて罪せられ眼を覚させんと抜放ら圍ひられ此時
託馬郡司兵衛俊國が妻宇和竹もいふと夫の喪明中よ初ふ非命死す夫
を悲み夕部母の家を衰えを恨み愁ふ沈み東の間も暗やれ中母も夫の
常にり置れを守り。主家の騒動は少より急ぎ走れば此光景はつと
隠し持てられ刀次拔ともいふとけんと做を外記左衛門宇和竹中目事なす入公
初め老女なればそやも悟りいふと政景が後の方へ圍ひしつとされ此方
は伴ひ政景が戦へる非間小り地もさう落行たれ。

第八

宇和竹街小して食ととふ

爰に託馬郡司兵衛俊國が妻宇和竹の元永元年主家の騒動よりこの
方伴ひ序じて逃去り。敵方の査黙はよれを誘ひにさよふし今と我國

より三百里は放し和州初瀬の村落小身次ひとてても。天治二年甲子八月
次経く。主家のさびく次養ひもあらずれの壮士も増え。猛小ありひつれども
知音もあらず人の國殊小貯りつれれば詮支形。かく危急に迫れる打
あけやなば睦月のかさを初め勞しむるに歎きおりの古郷のふり露をやり
もいふじて成長。あつと旧長蜂のことくに群あり原の心身となりあふこと
母あれば徒よと強を務めあり俱小健小おひ育るふこそ本意うらめぬ
鄙の何ごも小小にせられも心身はひとこむらんあつと究竟の地。米買ふ里も
隔ありて米賣人を呼び入。隠れ家とせえあめんもらたてく。布囊も此
と米を運びろふといふ。理とつと俺もあつとえが人の目端あかたらがれ
かり田守なしとみじと偽りれ詞をかぎり日ゆく出く人足あつと地所を
探み人群小近づき赤くさぬ顔も破笠小中隠れ人。情の下に位れぞし

哀^{あは}れ^れと^と些^{ちと}の^{もの}情^{なさけ}が^ある^る垂^たり^たん^だ願^{ねが}ひ^ひを^なれ^たと^と袖^{そで}や^は袂^{たもと}か^かは^りて^て其^{その}日^ひの^の采^{とち}の^の
 價^{あひ}も^あら^るく^くに^に些^{ちと}も^も采^{とち}も^もあ^あも^もく^くと^と隠^{かく}し^し計^{はかり}ら^るふ^ふ公^{こう}の^の中^{なか}れ^れら^るけ^けは^は睦^{むつ}月^{げつ}の^の方^{かた}両^{りょう}
 子^こも^も夥^{おほ}くの^の婢^{めかけ}女^{によう}小^{せう}傳^{でん}は^は二^に三^にに^に足^たら^るる^るな^なれ^れぬ^ぬ昔^{むかし}に^にか^かり^りし^しと^と期^{あこ}
 夕^{ゆふ}な^な小^{せう}泪^{なみだ}の^のあ^あら^らじ^じ薄^{うす}余^{あま}形^{かたち}も^も飯^いま^まで^での^の價^{あひ}小^{せう}迫^{せま}れ^るみ^みと^と更^{さら}ま^まり^りた^たま^まら^らぬ
 以^もて^てい^いた^た奴^{やつ}又^{また}蟹^{かに}喜^{よろこ}作^{しやく}が^がお^おり^りし^し妻^{つま}柵^{さく}を^をは^はく^くぬ^ぬ訳^{わけ}あり^りて^て飽^あら^らぬ^ぬ夫^{おとこ}小^{せう}離^り別^{べつ}を^をら^らけ
 今^{いま}ハ^ハ便^{べん}衣^いへ^へと^とい^い只^{ただ}夫^{おとこ}の^の情^{なさけ}お^おり^り流^{なが}ら^るり^り一^{ひと}個^この^の娘^{むすめ}力^{ちから}に^に倦^うま^まる^るお^おり^りし^しも
 足^たら^らぬ^ぬ勢^{せい}別^{べつ}嶧^{へい}阪^{はん}の^の丘^{かみ}邊^へに^に徒^{ただ}小^{せう}春^{はる}秋^{あき}を^をお^おり^りぬ^ぬ一^{ひと}日^{にち}初^{はつ}瀬^せの^のか^かた^たと^とい^いふ^ふと
 身^みが^が除^たれ^れし^し取^とんと^とす^すれ^れを^を羞^はら^らし^し身^みを^を背^{そむ}け^けし^しど^ど。元^{もと}ま^まか^から^らぬ^ぬも^もあ^あら^らぬ^ぬ袂^{たもと}
 を^をひ^ひ入^いる^るも^もあ^あら^らぬ^ぬか^かけ^けく^く育^{そだ}わ^われ^れ柵^{さく}の^のあ^あり^りは^はれ^れぬ^ぬな^なぜ^ぜ隔^へち^ちま^まら^らぬ^ぬと^と眼^{まなこ}を^を
 眼^{まなこ}を^をは^はれ^れぬ^ぬも^もあ^あら^らぬ^ぬは^はら^らぬ^ぬ離^り別^{べつ}の^の訳^{わけ}は^はか^から^らぬ^ぬ知^しり^りも^もあ^あら^らぬ^ぬや^やと^とい^いふ^ふは^は

胸^{むね}の^のいと^{いと}苦^{くる}しく^くも^も余^{あま}所^{ところ}に^には^はい^いふ^ふ世^よ渡^{わた}る^るへ^へは^は業^{わざ}が^が知^しり^りま^まり^り縁^{ゆかり}を^をと^とて^て杯^{はつ}
 が^が賤^{しん}し^しぬ^ぬ辛^{しん}苦^くは^はし^しぬ^ぬは^は何^{なに}事^{こと}ぞ^ぞや^や我^{わが}夫^{おとこ}俱^{とも}小^{せう}達^{たつ}ま^まり^りす^すれ^れる^るは^は仕^し
 中^{ちゆう}も^も挿^さ候^{こう}も^もら^らり^りは^はら^らぬ^ぬと^と尚^{なほ}いと^{いと}に^に胸^{むね}迫^{せま}り^り恙^{やが}を^を回^{まわ}り^り言^いふ^ふれ^れも^もせ^せ
 ぞ^ぞ。耳^{みみ}し^しか^かの^のの^のの^のに^に思^{おも}ひ^ひ廻^{まわ}り^り泪^{なみだ}を^を隔^へち^ちま^まら^らぬ^ぬ言^いふ^ふに^にが^があ^あら^らぬ^ぬ
 こ^この^の縁^{ゆかり}由^{よし}が^が祥^{しやう}の^の言^い説^{せつ}ら^らば^ば何^{なに}ふ^ふこ^この^の悪^{あく}り^りお^おんと^と柵^{さく}倚^より^りて^ては^は我^{わが}夫^{おとこ}
 我^{わが}他^たも^も何^{なに}の^の由^{よし}ぞ^ぞ君^{きみ}連^{れん}の^の恙^{やが}な^なれ^れと^とは^はお^おり^りは^は喜^{よろこ}び^びお^おり^りや^やめ^めが^が此^{こゝ}初^{はつ}
 と^と病^{やまひ}中^{ちゆう}臥^{ふし}あ^あれ^れぬ^ぬ訪^{まう}ひ^ひま^まの^のう^うさ^され^れも^も延^のび^びら^らぬ^ぬ先^{まづ}づ^づ地^ちい^いか^から^らぬ^ぬあ^あら^らぬ^ぬ
 此^{こゝ}身^みが^がよ^よせ^せま^まの^のと^とは^はく^くに^に宇^う和^わ柵^{さく}の^の回^{まわ}り^り答^{こた}へ^へ羞^はら^らし^しぬ^ぬ。後^{のち}れ^れれ^れも^もこ^この^のあ
 小^{せう}今^{いま}日^{にち}と^と定^{さだ}め^めが^がら^らぬ^ぬ憂^{うれ}世^よ渡^{わた}り^り。是^{これ}と^とは^はし^して^ても^もい^いふ^ふ述^ゆび^びが^がく^く往^い来^{らい}繁^はむ^む地^ち中^{ちゆう}
 あ^あれ^れぬ^ぬ人^{ひと}の^の心^{こゝろ}を^をり^りお^おり^りぬ^ぬと^と怖^{おそ}し^し又^{また}達^{たつ}ま^まり^り幸^{さい}も^もあ^あら^らぬ^ぬは^はと^とて^ては^はこ^この^の行^い
 去^さり^りぬ^ぬ柵^{さく}と^と宇^う和^わ柵^{さく}と^とい^いて^てよ^より^り。今^{いま}日^{にち}ハ^ハい^いづ^づこ^こに^に業^{わざ}を^をは^はした^たま^まひ^ひけ^けれ^れぬ^ぬや^や。

暑さおけけ寒さにつけ。我身のほくらゆるみもせめては身あいなや
 いとくあうけくくくすれ務めしく安さ心もわす夜も小寐るゆめなく。食も
 減さおおりのひなれ公の調度も整ひられ。今一度ぶら目見せんと初瀬の方
 へ行ともおへん。三輪の辺を尋ゆれど夢あごにええむつねを。先より先と
 當麻の彼方へ行えれば。人群を袖ごに寄添るあへ正しくかの心方と連
 るるこの嬉しは花とほし。月と詠め。宇和竹の袂をむえ。木影小伴ひ蜜を
 りとれと。報ひすいしと。正とて。貧しれ。身の公お任せと。殊おへ入るは器も
 なく。包めれ。布も不自由なれば。いと汚くおやしらんが。公ごかりれ。夕飯と必
 食し。むつれりの形くば。いつか。身の本望ぞやと。布に包めれ。箱とらう。出
 渡せ。宇和竹の泪さう。ゆめの飯。不足ならん。小公。是しの夕飯を百味
 膏梁よりほさへへ。嬉しは。は。お清々れ。水吻と吐息。お安堵は。いつか。と

達磨寺の邊まで用の奉れ。あり。それを行。身らん。み。云。述い。それ。行。く。り。れ。
 宇和竹のゆるり。形も。柵。飯。送り。を。斯。是。れ。を。情。り。ら。後。利。を。れ。り。の。ぞ。り。
 とや。夕飯の。時。身。れ。ば。本。影。も。より。て。あ。さ。め。せん。清。水。な。ど。吞。咽。あ。め。ん。と。お。ひ。
 包を引。け。行。んと。さ。れ。お。さ。か。い。く。も。尋。常。の。飯。の。重。さ。お。異。な。り。い。づ。か。し。く。器
 の。蓋。が。明。え。れ。ば。飯。の。下。に。懸。た。れ。黄金。の。れ。を。え。と。驚。さ。人。の。う。ん。と。お。れ。
 と。中。も。蓋。の。蓋。を。は。し。公。汝。あ。つ。と。お。り。ん。の。恩。を。報。ゆ。り。為。教。の。英。令。と。ゆ。り。
 抄。け。く。も。去。り。て。も。か。れ。大。令。汝。貧。し。さ。身。を。て。整。へ。れ。と。い。づ。り。く。善。惡。お
 よ。り。と。後。少。の。諫。め。の。あ。ら。れ。と。も。此。英。令。の。用。ひ。が。く。返。なん。と。待。た。も。う。ん。に
 音。信。ぞ。信。る。地。所。も。亦。へ。れ。ば。詮。さ。ん。な。折。こ。そ。あ。め。と。徒。小。折。し。あ。も。甲。斐
 なく。月。日。の。次。身。汝。違。は。さ。く。運。り。引。と。い。へ。れ。も。形。く。春。光。融。く。し。て。霞。散
 つ。り。身。の。鶯。の。啼。れ。も。人。の。お。ひ。を。あ。ら。ば。れ。と。恨。ま。いと。抄。夏。復。の。日。は。く。さ。る



陽氣やうきとんとすれハ秋風あきかぜ層々かさね冷ひや。紅葉もみぢせれ樹きれ稍いさも初冬はつふゆにはり。霖雨りんう且かつ
 落葉らくえつの自然しぜんを待まちど業わざ出いへと日ひ連つりなりけは食たは食たとれ飯いもも宇和うわ村むら
 といふせんとといひづらひりれ偶あひありひ浮うこゆるハ前まへに柵さくより贈あづりし英令えいれいあり。
 たと人ひと盗ぬすとされ禍わざはひひらがらび降ふれとも今主人いましゆじんの飢う餓ゑ及およびみひゆる。其その朝あさ
 小當こあやり是これは思し慮りふるとれへた時ときもあらはは士しの身みなりせば斬ころ取とるもも主しゆ
 人の口くち為なりしとはしくと心こころ決けつし。此この英令えいれいとりつと養やしなひまいとせんと英金えいぎん
 一圓いちげんをまい出いして行ゆく飯い米まいをか買かひし折おゆし。傍かたわら小物せうぶつ買かひし後あともえへま小こはらがら
 一い刀たうをか帯おひし旅たび人ひとありやええと倍ばいがらひそうまえへ隠かくれし宇和うわ村むらがら地ぢのあ跡あと
 ぬつと。茅舎ちやうやの門かどへ入いるとは声こゑをうけし汝なんぢを食たの身みとりて英令えいれいを貯たくわへ一圓いちげんをい出い
 米買こめかひふ事ことのいふしに正ただしく警けい木家きけの類るい葉はちりり。からいし者ものハ村岡むらおか玄蕃げんぱん
 が家生けいせいなり。敵てきの根ねをいんと諸國しよこくへ人ひとを走はりしせりはりしふさはらかえし給たまへし我われ

さらば最中なれぬ我汝と引連賞金小預ふんとす。まの直小吐はし引連入ん中
するが振放言訳はべた者ともへざれば我家の奥へ走り入流し。流石功を
を出し。はし向ふがやよこ中なりとてえん。小斬結ぶ老女がくも流石功を
なれば。あひ小あまのこの手癖を肩ひけららるり。落延まへと氣はひららるる
は。何國のあてもりやぶれども。今へ詮まぶる。安壽姫都志王丸が尤古れを
と推乃ひは。落まひぬ。宇和中のとや。おはしとありのま。働と。遠舟玄蕃が衆生
とさし。違ひ死て去り。

第九

観吾吉野小妓と細穆

扱託馬膳捕が子観吾と。國とまり家を出くより且くの風景の良なるお
氣成打ひら。諸寺法山小詣と。各所旧跡も池く。一見つとに分く吉野の
國の季春のよ。人の心をよほ。はしめ。程行人の袖小襦とさる。裾はくみてらる。

ふふ花の香が。貴賤引もとら。はれ中。下際鮮明。母して容色世も勝と。蟬
蛸類ひる。年紀二八を些す。たははり。れ奥女。深窓は。放と。教を。の。奴婢は。傳
は。れ。襦の。の。の。床。へ。腰。う。ら。か。け。四。方。八。万。が。入。渡。せ。は。あ。ま。の。花。と。い。ふ。も
羞し。今宵の月。れ。雲。ふ。陽。も。ん。車。が。あ。り。れ。く。さ。ん。と。い。せ。じ。て。路。の。街。に。五。塞
往。身。を。疑。れ。観。音。も。何。意。が。く。同。じ。床。へ。小。休。む。偶。互。ふ。れ。合。せ。観。吾。心。よ。の。愛
人も。女。小。あ。り。た。れ。と。此。方。小。あ。り。人。が。向。方。に。も。絶。世。の。良。男。子。と。と。あ。ひ。發。り。鳥。の
紅葉。せ。る。ふ。春。秋。一。度。小。に。し。を。地。で。奥。の。氣。お。行。人。の。名。残。を。惜。こ。す。と。ぬ。ま。は。し
観。吾。の。腰。中。より。短。冊。を。出。し。矢。建。の。字。小。公。の。厚。さ。を。會。せ。せ。
ま。ま。霞。と。ま。ひ。く。山。の。さ。くら。花。を。見。え。と。も。あ。く。ぬ。君。も。あ。る。か
斯。一。首。と。社。筆。に。認。め。橋。の。枝。へ。結。び。捨。名。残。を。お。し。わ。れ。さ。は。と。花。お。か。と。は。母。
互。ひ。小。眼。を。り。て。情。を。添。り。て。今。の。果。じ。と。い。れ。ぬ。れ。此。方。の。兒。女。の。観。音。の。行。

跡と眼も放るん送りしが。観音の杖へ結内短冊を自さうて。あうりて懐
 中做をえく。婢女ふが耳言に面映氣ふ笑會て簾の方へ下りぬ。観音の當山へ
 旅邸を取てゆく。各所舊跡もあづる。大峯へも廻るやとせひるれゆ急
 静ふ登山ましけり。又下六田のかさより。千本の花をもりてほれる。海舟を
 おりくも泳めど。老女が伴りれ。豊と見女のいふ成ゆえめて引之せ。先丹
 おほし床几ふ休らひと。たへ教多の婢女をこづひ。今も老女一個具。頭の飾
 も遠ひ衣裳の遠ひもあれど。去りても露むかりも容貌の嫩ひ形。これ教多
 の婢女へ残。老女一個もは。かへ宿願あてもありけるゆえ。蜜も権現へ詣る
 なふんと。世に床几の縁故より。静るぬみ。同じ旅店へ。とせひし
 流とあはしの験なれど。観音へも家僮をして同あひる。不舞妓あるは
 されば。お母よりあひ。呼てま。旅のうさ。やも暗さ。やと。とせひるれは。と

かり。美女美男に。花も香も棄るん。のむや風の透ひと。待て音絶。固日
 の限り。おた旅。うと。旅客の為に。足と。ま。業と。な。ま。おれ。誰叱。お。お。お。
 ぶ。ま。な。な。れ。ば。一。度。が。二。度。と。愛。慕。の。情。重。ま。ま。の。空。言。は。ら。の。赤。心
 と。た。が。ひ。ふ。す。丹。が。を。し。終。お。せ。破。中。と。ど。お。り。ぬ。一。夜。白。拍。子。小。橋。観。音。お
 り。お。の。め。ら。な。る。お。神。の。結。ひ。あ。る。お。や。旅。中。お。か。づ。細。繆。の。ほ。こ。の。切。も。切。せ。し
 裂。と。も。裂。し。結。ひ。ひ。て。も。な。ら。な。妻。が。幸。の。う。さ。も。裏。な。れ。を。め。り。し。ま。の。せ。ん
 た。め。ワ。い。が。差。へ。さ。の。詳。ふ。説。話。は。る。り。妻。が。身。の。符。袋。な。れ。際。り。お。父。の。元。を
 母。と。結。も。に。列。と。世。に。知。る。人。を。使。り。勢。川。の。に。辺。お。幽。お。栖。ひ。その。目。く。と。之
 ち。く。若。も。さ。ら。一。日。母。と。お。の。初。瀬。の。團。お。よ。れ。お。の。め。り。し。が。主。家。般。若。木
 家の。に。託。馬。郡。司。兵。衛。俊。四。の。妻。宇。和。咩。の。家。亡。び。し。より。諸。と。と。ま。の
 よ。ひ。世。お。業。ひ。も。あ。る。へ。ま。に。袖。を。と。なり。て。其。日。と。い。く。な。ま。わ。る。の。さ。る。お。忍。び

ぞと。いふとも見なれ寒素の身。悔れとも詮なく。いつか身と共令
 お贖ひ。おぼけのりに恩を報ひ。これ子細結し。れば母子のそほひや。と
 感ざる。あもあまのり。其磐木家の臣。託馬郡司。兵衛俊國。といふ者。ハ
 我家の本家と。まける。國々隔つ。れり。三百里。及び。互。未。世。ふ。なる
 ゆれば。自然心と音信も。遠く。今。疎。遠。ま。これ。家の滅亡。做。せる。も。あ。ら
 ざれ。正しく。繫。累。一家の。為。かく。浮。女。となり。け。れ。身。の。不。便。な。れ。親
 と。後。寄。と。い。ば。本。家。の。ま。あ。身。洗。わ。れ。汝。を。先。根。引。か。る。ば。一。家
 の。實。氣。と。盡。さ。し。我。も。孩。子。の。初。見。堅。く。幼。東。か。せ。れ。見。女。の。と
 け。た。と。側。女。と。な。ま。せ。迎。む。此。より。以。て。父。母。へ。説。話。な。は。早。速。お。告。げ。託。馬
 夫婦。心。身。の。母。も。呼。迎。の。間。の。処。へ。ま。あ。く。足。と。止。め。幸。ひ。を。待。む。我。持
 此。地。へ。足。を。ま。め。ゆ。れ。ば。そ。や。發。足。な。ん。と。の。別。は。お。小。橋。も。契。り。お。く。もの

なかり。け。ま。今。更。の。中。ら。に。名。残。を。惜。み。唯。い。は。る。り。又。も。泪。も。隔。ら。し。
 残。り。が。ら。か。れ。を。恨。と。別。是。け。り。わ。ま。り。歎。き。後。に。老。女。制。して。あ。る。お。悪。さ
 あり。勢。な。れ。心。身。い。と。く。歎。れ。お。悪。も。あ。ら。は。い。く。預。り。あ。る。身。あ。て。い。つ。せ。ん。
 原。河。竹。浮。是。女。の。業。ひ。と。お。り。て。お。滅。を。か。ざ。り。内。心。お。仍。り。と。巧。く。人。の。お。成
 迷。い。し。お。賤。室。と。お。ん。と。お。せ。せ。して。す。丹。お。お。り。あ。ま。い。の。お。じ。これ。を。か。さ。し。ひ
 とも。心。身。の。身。し。て。心。身。の。身。形。に。これ。が。歎。く。あ。も。そ。は。あ。ら。ぬ。事。な。る。
 最。早。の。所。お。足。を。ま。め。り。とも。黄金。お。成。へ。と。旅。客。も。え。へ。も。た。わ。ら。び。の。ぐ
 地。なり。とも。利。方。よ。ろ。し。地。へ。ゆ。さ。お。ん。と。伴。り。んと。す。れ。お。小。橋。は。今。世。に
 この。と。ら。へ。ま。め。ら。ば。身。も。あ。る。觀。音。の。より。れ。便。り。と。ま。め。れ。と。い。ふ。
 老。女。の。い。れ。る。觀。音。の。い。れ。る。ま。ま。空。言。し。と。更。お。肯。り。と。小。さ。ら。た。は
 川。連。人。群。の。地。へ。と。行。た。れ。と。なり。



山井太夫巻之二

第十

膽輔影像小賓禮を行ふ

爰に近江國瀨賀郡苗鹿邑の御士託馬膽輔を山林田庄乏から家富
采へられ先の年膽助病に浸るるに巫を信し医に任せて沙る
ところなきをてしひとも験なれど山城清水寺祝世音小僧言なせし
小利生とも知小のわれ日と追ひ頃快は月夜進ひ孫不快なすし。そや
礼糸うさへくけりおおひひるも。下日延二日さふん延引なりされど妻
の荐めお公けげき清水へ詣りにそかづられ災難が塵土作のたさけあそ。
幸に命が拾ひも則祝音の利生小ある処と其日くして後ひ。今日もその
災ひを免じ日に當は祝音より厚く供物までして恩人塵喜世未だ尋
来らば位れ処もあつられおをりの譲りしを我劍を床の正面に直し並
則それを喜懼なりと賓客の礼をさす膳を供えられりや十年あも及

めれど。子息觀音も俱不行るなりし小旅へ生くしやと涙ぐられとみ足らぬ
まうにさ終ふかまども。先例のごとく奴婢も今宵を公の住酒食飽ませし
て匿し貯へる藝など做あひひの笑ひ或を譽る戯れも。そやと更あも過めれど。
面々森房へ入る打即ぬ諸も爰に山角太夫といふ賊首指揮きて教多
の法盜膽輔私衛へお入し。さうと臥し間なれど小眠りのさう酒氣も醒む。
叔人なりた処とおひつれば面々持襟木をりて防ぎ闘ふといふも切とられ架
溝ふなりて逃退く。賊首山角太夫を膽輔が言ふ小舟に縛り。賊室の首所
と祥子吐せおひ小賊實はらひと。床小飾ありは我劍こそ業物あるん
と問ひられども。回答なされを其さう腰帯に切味と襟人小。膽輔が首は
打落とて水もたまらばれは。大膽不敵の山角もけりて腹を刺し。叔も切味の
尖やと權打泳めど。静舟下と纏めと上山へ引たり。甲乙を賞し賊室と

分ちわさへん耐折し。暴風起し雨は霧をけくうと疑ふ。巖の山鳴地震ひ岩
 石碎け礫あまじく。樹木横たうて根を空も。足の踏ごとく定めといふ。成
 るごとく慄怖たれ。果して明落螺枝天災目あま。摩了。教多の賊山碎ふるん。
 死あたる。山角大夫も俱ふる。死をせたる岩角も隔たり。辛じて死を免れ
 強ううれわれゆゑあや。眼氣破る。盲目とつりける。山角心あがり人とし。六
 根の中つれが。多れも不用の人となれ。さふ分。目盲と入。流るるも。淫るるれ
 是。黠の滅死せ。中。我一個と。かりわれ。未だ天の之捨あ。たれ。処。は
 浮雲と拂ひ。天の心も優ら。せん。べ。りの世あ。報人と。積悪忽解。る。公。起
 日誓願。し。た。れ。我天地の間。ふ。幸ひと。人と。生れ。男子と。生れ。四民の業
 放。う。の。こ。な。と。び。悪行。ふ。起。し。その報。ひ。ふ。依。る。ま。ま。ころ。よ。盲目。と。お。れ。り。

盲目と。ころ。と。清んより。死と。叔。世の罪障を滅せん。と。願。く。一。度。清。眼。あ。は。し
 む。ら。ば。盟。す。此。堂。守。と。な。ん。と。信。心。を。こ。り。お。く。勉。む。く。と。三。七。日。の。ら。ち。改。今。六。ち
 行。を。は。し。這。所。み。龜。ま。く。一。心。不。乱。再。祈。願。は。し。れ。を。満。願。の。日。に。わ。り。眼。氣。暗。く
 と。り。り。て。眸。目。塵。埃。け。う。ら。初。め。て。隨。喜。の。泪。を。淳。へ。厚。く。礼。拜。は。し。直。み。自。刺。髪
 む。し。願。ふ。誓。言。と。く。為。次。め。て。改。め。堂。守。の。名。は。麻。の。衣。ふ。世。と。い。ふ。一。飯
 の。素。食。も。膏。梁。と。食。を。れ。より。妙。も。安。く。山。水。も。安。淨。と。清。め。唯。念。佛。供。は。れ。の
 る。に。身。が。投。ら。ら。一。年。三。二。と。せ。の。冬。朔。風。も。平。ひ。く。風。の。雨。積。て。山。を。ろ。と。い。く。寂
 寞。と。れ。五。更。の。比。一。個。の。旅。人。山。中。に。こ。る。峯。岨。殊。再。程。狭。く。向。上。は。千。仞。五。山。松。柏
 覆。ひ。墨。画。の。ごと。く。直。下。は。叢。生。冰。溪。を。か。して。お。凄。く。休。ら。ふ。べ。な。ら。な。せ。つ。わ。か
 ら。し。ま。に。爰。ふ。一。つ。の。小。堂。あり。て。燈。の。光。を。お。た。た。せ。け。堂。守。れ。お。つ。と。あ。や。と。音
 耗。椽。へ。腰。ら。ち。か。け。た。れ。顔。拍。ま。ら。出。り。お。れ。り。地。より。通。り。も。ふ。や。夜。陰。も。い。と。ふ

ばねの果して急ぐ縁由のあべれど。北山尋者の難所より、足跡不疎路より
はれ、常に別れ者より、夜陰に往き、狼獣の危あともあり。急ぐまふ
ともあやむらむら、要用果さるものなり。夜明け、後通路より、五更もされば、
權此堂、小足入休め、薪などに寒きを、暖れ、公とゆらく、行くと惜げ、うぐ木、焚
いと切なり、れば、旅客草鞋も、さしく、堂へ坐らんと、され、肘、頬、あけ、け、ぐ、ま、伏
を、え、く、ま、れ、れ、首の、け、く、り、で、に、紐、く、も、さ、げ、れ、れ、正しく、黄金を、数、多、首、小、鏡
懐、お、する、もの、ぞ、ん、と、思、ひ、我、か、れ、光、景、あ、て、一、け、と、る、え、ん、より、再、び、情、欲、恣、れ、ま、る、こ
は、美、泉、の、鬼、と、成、る、も、悔、ま、う、ん、と、眼、盲、て、五、戒、を、た、り、ら、眼、盲、ひ、く、又、十、戒、も
破、く、ん、の、悪、念、生、じ、日、比、の、積、勤、行、も、暮、小、解、と、旅、客、の、小、眠、を、寤、ひ、託、馬
の家、より、盜、り、り、公、の、劍、と、り、て、忍、び、寄、板、あ、り、で、も、通、道、と、斬、込、と、旅、客
引、く、が、て、遠、向、方、へ、翻、筋、斗、さ、せ、も、改、め、ど、我、積、惡、の、功、お、汝、が、美、令、を、腹

お、ま、と、我、勤、此、方、へ、送、越、と、云、は、又、討、つ、り、と、才、を、か、た、腹、破、く、ん、人、を、動、も、く、せ
さ、し、て、ま、れ、表、中、と、深、衣、お、菩、薩、の、ぶ、ら、内、心、扱、及、も、ほ、ま、れ、く、傍、お、似
寄、か、れ、劍、と、所、持、は、夜、陰、お、建、へ、れ、者、と、し、て、威、怖、利、と、る、り、と、業、と、做、を
盜、賊、此、方、に、金、ろ、ぶ、俱、に、旅、客、の、強、盜、お、及、ぶ、之、し、飯、例、後、の、見、世、め、ふ、な
さん、と、丸、裸、お、は、す、帯、や、り、て、柱、へ、縛、猛、と、れ、り、白、及、を、錮、治、の、て、く、曲、柱、へ
廻、一、首、枷、と、す、控、才、動、も、お、ら、ば、れ、ハ、今、ハ、公、安、く、や、よ、盜、賊、め、足、ま、で、旅、客
と、腦、せ、報、ひ、し、て、命、を、賜、ハ、却、と、安、さ、公、か、ら、ん、因、と、か、か、く、恥、辱、と、さ、ん
為、斯、を、そ、か、ら、ひ、け、る、な、れ、萬、物、の、靈、け、さ、れ、を、ま、ら、善、惡、の、速、さ、る、を、悟、り、
非、義、非、道、を、身、勸、懲、と、こ、こ、が、足、り、ぞ、の、罪、も、滅、さ、る、所、以、さ、り、と、教、訓、を、な
行、さ、る、願、誓、何、お、り、ひ、ま、れ、あ、や、そ、の、い、と、目、及、因、死、を、待、む、か、り、さ、り、夜、整
良、明、渡、り、往、ま、り、折、也、の、中、に、途、と、沢、の、ゆ、ち、と、公、お、思、ひ、行、さ、れ、と、の、み

山本... 九三...

孝^{たか}より^るれ^ば回^り國^のの^髪髮^を傍^に及^び脊^を負^ひ地^藏ま^るへ^ん礼^拜は^し此^の光^景と^りて^て敬^馬に^て
 便^から^ば本^にに^て傍^へより^て入^るに^しま^し死^せを^眼を^閉じ^て居^られ^ば
 此^の成^宿世^の定^めや^と鉦^らち^らう^じ念^佛唱^へ行^きん^とせ^しか^ら又^ま立^戻す^中よ^の
 出家^の糸^となり^り三^世の^罪を^滅せ^んを^かる^べし^い成^悪行^ふて^いま^の前^生
 の^報以^解ぶ^れあ^やか^れ恥^じめ^らけ^るぞ^我仮^初も^髪傍^となり^回必^ず
 後^行あ^まら^ん祥^を悪^業を^懺悔^はし^罪障^を消^滅は^しま^し傳^ふ回^向成^す
 は^し得^{せん}とい^ふを^頑抗^を眼^をひ^くれ^眩涙^とや^我西^國の^者あ^ら故^く
 の^傍と^り扇^糸の^才か^れば^傍処^も定^めぞ^幸も^同國^のの^行合^は
 な^れふ^直砌^父と^れ者^病の^床に^嬰り^九死^とぞ^比し^{より}狼^狽夜^と日^に繼^先近^死
 と^喜ぶ^見る^此堂^守の^乃ふ^僅の^踏費^も棄^とま^うの^まな^らば^しめ^れ繩^の
 目^のめ^も忘^てても^父を^諫へ^んが^れも^天の^冥慮^も憐^れあ^や父^のと^云

病^の期^中當^り禍^小達^も皆^天の^あり^しれ^処あ^て賊^を恨^みふ^至り^何國^の
 いか^にれ^地あ^ても^我へ^向ひ^一扇^の回^向と^憑頼^{ある}の^眼く^く父^存命^{の内}露^の
 ば^うり^も骨^痛せ^がれ^りと^未と^説じ^て涙^も喚^みと^傍傍^{いと}不^便ある^る
 る^もあ^ひこ^や公^弱と^是悟^{あり}災^ひあ^の進^も牙^を悔^ふ一^已の^ゆじ^て
 父^の生^死い^ま分^らざ^ら快^く彼^地へ^走り^行ふ^ば孝^道の^一も^あと^直は^親目^に
 次^解劍^の首^枷を^とれ^ぬら^むか^りて^えの^ごう^に直^なれ^ば支^個の^中
 に^扱も^名劍^の形^と敬^馬と^介抱^はし^れば^魁生^を喜^びり^えく^もあ^らば^諸も^も
 世^のあ^らが^れ情^{なり}と^多く^往來^なら^むも^服目^あら^ば早^速ふ^まれ^人情^に
 な^れば^内牙^の厚^惜あ^す孝^もそ^とに^至れ^報由^づれ^の進^を前^に吐^き始^未る^に
 且^のせ^め其^及な^と脊^負と^山坂^の勞^を休^めん^と速^ふを^結友^を脊^負先^に
 不^支道^をか^くと^さぐ^んが^悔せ^れら^し何^國い^かな^決り^て回^國あ^ら出^るは^しを^定て

つらひにたのみのりて形くんと同されへ髪傍りし我の巡国は出る伏見の
の侍行者ふあふに白地お咄とふた筋おもわづればもそのかたは一月の死を救
おもはれ宿縁ありとふれ故に我事ある助もなると子細と説話なり我
主の家へ丹後のは由良お侍る山井大夫としりて大長者なり満ち八信るのちふ
や爰に一の怪みのり同國竹野の社祭神のまは機と侍るふ古例とてい
うがに宿世の定めや主家の一位娘この悪神お入られおしめられお夫お
なびき此機とゆふせ多くと天お仰せ地を誅し口説るゆいて巫子戸視お多
く此賊宝おのえ丹誠を廢し幣白と大麻お掲げ彼嵐の外あて一七日のちら
祝詞と上満るおも甲斐さう二七日おも強くなれど大夫歎し我仮ふ人万と
すれ万宝と得るといふも一個の子おかへははと伶俐はして美目貌
衆もあはれおのなれお電もとも我流く命とゆいしむるものあはば八乙女次

を揃へ神樂次奏し祭神せんと新誓りせしうは二七日の明ごとふ不思議な
幻子告めたへ高甲子お知り道一なり。丸をうり新くもさう汝が阿娘より勝を
うれ美目親すれ見女をりく贖之し。されより我小余じ安令といしこと
買ひ求ん為回國さう。二つめの主家の女吉野へ花をとりし時懸想はし
男子ありと安夫よりして替く病んむかりなれば。あまうれ事おしといくと婢
さうかむむえんゆとてかれども。いごこの者といふ事をあはれ。されば詮はたふと彼
娘初と初言号ありは由と。近江國漁賀郡苗鹿邑の長者託馬助と
しりての子息觀吾といはれりのと安。えぞ知らぬの男子なれども。因社りの
と辨へ負実なれりゆえ此觀吾と呼迎るが一場の迷ひもされ。病ひの根
おも成はしと年寄婢女のをかたひみて。むそうふ近江國苗鹿村へも我流
流し処豪家位しれ家あるは。あて人假めれもえへぞ。其縁由を辺る人お

くらわれぬ盗賊の為主後討と亡び
 めりはし僥倖子息観吾その物と
 他國に火火ひを道と父母の撲死
 の物もま合はれを悔ひしが地へ
 身と忍びしものゆかりの不勤の
 支成りたる名剣と主人より贈り
 されはし空を極むおれれども
 夫等が能く観吾を者
 を尋んとせし此二の者としの身をわらうもあはば
 必びて主家へ伴ひしるべし勞の盜はしごとくは
 類推しつゝ毎黙頭答へられしかる大恩と報之と事のかたを悔じし恩人の



今話せお内一方と償りんとと其由えハ我前母當國へ下り耐些に知音のもの
 めりて這山奥半道むかり先の谷合小茅舎ゆり一位の娘殊母傾國の色ゆり
 左右もまづ行きて入て事をせしむとて細道へ伴ひ人足も弛寒くはし樹木
 覆ひ茂て宛も闇夜のごとくなりけれど類推言のよく地利を弁へわれをよれ
 地所とくはれおかり腹痛のゆめれ些く度どけしむいせんと驚愕お
 渡し跡よりうめれつゝ行かむや折はしと切味尖きと劍をりて服腹と目掛
 く突くとけお恩と例小報ひつの人畜めと白眼おも急所の痛はふたまるべ
 此其まゝ息を絶てつゝ類推言研ごとく笑ひ扱もき流と奴を我と救ひおら
 我又その報ひとして淋と害を我發りの淋兒女を買求めんとおわれが其今夜
 待しつゝやまの自業自滅とせんり次祥うに吐ふしつゝ目前宝の山も騰
 らざんがあふびと淋と殺し後の害を避んとおぬり非命の死とむこと我を

山奥半道むかり
 谷合小茅舎
 一位の娘殊母傾國の色
 樹木覆ひ茂て宛も闇夜のごとくなりけれど類推言のよく地利を弁へわれをよれ

加六
 地獄

たどけし切彼小より。かき入る極樂地へ至らん。今引導を渡し給ふとて。
南無精靈頓證菩提阿弥陀仏。大や鳥の腹を肥さへ。と谷底へ踏む
後と脊負く銚らるるじゆ。と進ま行ぬ。

山科大夫木枯物語卷之二畢

神功皇后 ちんごん 神僊神明湯 しんせんしんめいとう
御鎧袖藥 ごよろいそでぐすり 價 せんぜん 一色 錢百銅 いちしき せんひやくどう
一廻り 銀六匁 いちまわり ぎんむろむ

けし美むじ神功皇后御懷姫... 三韓御征伐は... 節武内大臣
教がくんの調令... 良劑... 世流布する血の道... 格別の神効
ありんがんの病癒... たらん... 然中婦人血の道一切... 産後がらひ
る大壽効... 用を... 婦人... 出せし小児... くれ
るんちり... 外左の諸病... 用ひ... 効能... き... け... 換土... 乃
系種... 製... 黄... 試... 乃
○さんぜんさんごの諸病 ○ちのみち ○おろし ○あぢ ○ひきつ
○ちうぶう ○さけ ○小児の諸病 ○わかん ○ま... じ

本家 大阪あまみ 河内屋重太郎 賣弘所 京三条通 太字屋得五郎 東洞院東へ

